

九州放送機器展2017

出展社情報

平成 29 年 7 月 6 日(木)～7 日(金)、「九州放送機器展 2017」(略称 QBEE2017)が一般社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)の主催にて、福岡市博多区にある「福岡国際センター」で行われた。この九州放送機器展は2004 年の第 1 回目の開催から数えて、本年度で 14 回目となる。

会場となった「福岡国際センター」はJR博多駅や福岡国際空港から地下鉄やタクシーで約 15～20 分、福岡都市高速道路からも至近と交通の便の良い場所である博多湾に面した一大コンベンションセンターエリアの一角にあり、出展社も全国各地の各社から出展、また来場者も地元福岡のみならず、九州全域と中国・四国地方にもおよび、回を追う毎に開催規模を拡大して、この催しが九州のみならず西日本地区を代表する放送機器展となっている事が伺える。

本年は建物の 1 階と 2 階の両フロアを使い、①オーディオコーナー ②映像コーナー ③照明コーナーの3つのゾーンとカメラステージにて構成されており、正面入口からみて突き当たり中央にはカメラステージがあり、例年この展示会の見所の 1 つとなっている。

さらに本年の特徴として入口からの人の流れを 2 階に誘導するように工夫が凝らされ、1 階には設置されていないドローン実演コーナーやVR 体験コーナー、アウトレット販売コーナーなどが設けられた。

開催期間中には、主催者開催のセミナーとしてソニービジネスソリューション(株)「広がる IP Live プロダクションシステム」/モンプラン・ピクチャーズ(株)、(株) anno lab、(株)



オープニングセレモニーの様子(左)と開催の挨拶をした広岡 淳利 JPPA 会長(上)

Zero-Ten 「Made in Kyushu! 地元企業による体験型インスタレーション制作の取り組み事例」/阿尾茂毅 × 染谷和孝 サウンド・トークセッションー 音の今、そしてこれからー/(株)Zaxx 「名古屋発のポストプロダクション Zaxx が東京をザワザワさせている理由(ワケ)」/グラスバレー(株)「Video over IP と最新技術動向について」/(株)NTTぷらら「IPTV における"4K&HDR"の展開について」などが行われた。

一方、出展者開催のセミナーとしては、タックシステム「iZotope RX 6 新機能」をはじめ、(株)ピーアイ・フォース「放送用音声ネットワークの将来像」/MARTIN AUDIO JAPAN Inc. 「ステージモニターの新革命」/(株)アスク「共同作業が必要な全ての映像制作チーム必聴 ～データ共有、バックアップ、アーカイブ～」/ブラックマジックデザイン(株)「映像業界に革命を起こす DaVinci Resolve 14」/MEDIAEDGE (株)「MEDIAEDGE 提案するネットワーク配信映像ソリューション」/(株)Spectee 「報道

分野における AI の活用と海外での活用事例、および AI 記者について」/アビッドテクノロジー(株)「Avid Everywhere の次なる段階へ踏み出す、MediaCentral Platform クラウド構想」/(株)Too 「EIZO×Too による最新 4K/HDR 制作環境」/(株)東京光音「眠っている映像資料のつかいかた」/ソニービジネスソリューション(株)「HDR ライブ制作ワークフロー"SR Live for HDR"」などの各社によるセミナーが行われた。

各地の放送局では 2020 年に向けてスタジオサブを更新していく動きが見られ、それに向けて出展各社では 12G-SDI、IP、4K/HD 対応の製品紹介が多数見受けられた。

なお、本年の同展の出展社は過去最多の 145 社で、二階フロアも広いスペースを使用していたが、同展開催直前に九州北部地方を襲った記録的な豪雨の影響で、主流の来場者と思われる九州地方の放送局では緊急報道体制を敷いていた関係上、残念ながら本年の来場者は、昨年を下回る 2,120 名(主催者発表)であった。



会場の屋外ではストロベリーメディアアーツの「ビジョンランナー」が設置された



ヘッドホン視聴コーナーでは、ヤマハ、オーディオテクニカ、SURE、Beyerdynamic、ローランドの各社製品が並ぶ



1 階ロビー特設会場では小型スピーカー試聴会が行われた

朋 栄

12G-SDI、IP、HDR、広色域の技術に対応した新製品をはじめ、最新のビデオスイッチャ、テロップ関連製品、簡単な設定で即時利用が可能なmo-sys社バーチャルスタジオ、Dejero社のIPモバイルトランスミッタなど、多岐に亘る様々な新製品を紹介した。

■マルチビュー「MV-4000」シリーズ：12G/3G/HD/SD-SDI、アナログコンポジット、HDMI、DVI（デジタル/アナログRGB）信号の混在入力、非同期入力、またquad link 3G-SDIでの2SI/SQD入出力に対応。様々な入出力をラインアップし、システム規模に合わせた最適な1台が選択可能なマルチビューシリーズ。



マルチビュー
MV-4000シリーズ 4K HD 12GSDI

■本展では、新たに輸入販売を開始したカナダDejero社のIP伝送ソリューション、IPモバイルトランスミッタ「LIVE+ EnGo」を紹介。

Dejero社のIP伝送ソリューションは、ライブ映像をリアルタイムにエンコードし、伝送

するトランスミッタをはじめ、クラウド上でルーティング、マルチビュー、素材管理などを実現する配信ソリューションなどで構成されている。

また、IPモバイルトランスミッタ「LIVE+ EnGo」は、カメラからのライブ映像をH.264形式にリアルタイムエンコードし、IPで伝送可能なモバイルトランスミッタで、SIM、Wi-Fi、LAN、衛星など、最大8系統の通信手段を組み合わせるボンディングで、確実なライブ放送を実現している。SIMカードは最大6枚まで実装可能。直感的なタッチスクリーン・インターフェースを採用し、簡易な操作性を実現。クラウドコントロールでWebブラウザから監視/プレビュー/ルーティングが可能。デュアルエンコーダ内蔵。送出と録画を異なるビットレートで実行可能。などの特徴をもつ。

■本展におけるもう1つの新製品である英国mo-sys engineering社のセンサーソリューション「StarTracker」。天井または床面にセンサー用シール（反射ステッカー）



マルチビュー展示コーナー

を貼付するだけで、センサー環境を構築可能。初期セットアップ完了後は日々の運用での調整が容易。高価なセンサーカメラは不要。ハイコストパフォーマンスを実現。スタジオでの3Dグラフィック拡張、バーチャルスタジオ運用において、自由度の高いカメラワークを提供する製品である。



mo-sys engineering社のセンサーソリューション「StarTracker」

池上通信機

カメラステージにおいて、2/3型4K CMOS 3板式カメラシステム「UHK-430」及び4K対応マルチフォーマット液晶モニタ「HQLM-3120W」を展示。

また、ブースにおいて、トータル・ファイルベースソリューション「iSTEP+」と、キューシートと連携し、スイッチャやテロップ、送出サーバ等の各種機器を制御し、確実で簡易な送出オペレーションを実現するOTCを展示したのはじめ、スイッチャ、モニタ、システム周辺機器、FPU、ファイルベースソリューションなど多彩な映像制作機器を出品した。

■スイッチャ：コンパクトスイッチャ「CSS-400」/マルチプラットフォームスイッチャシ

ステム「MuPS-4000シリーズ」

■伝送装置：1.2/2.3GHz帯デュアルバンド超小型FPU送信装置「PP-90」/マルチユー・デジタル「FPU PP-60」/ミリ波HD映像伝送装置「GL-60」/映像パケット化多重伝送装置「iHTRシリーズ」/FPU集中制御リモコン

■モニター：有機EL（OLED）マスターモニタ「HEMシリーズ」/マルチフォーマットLCDカラーモニタ「HLMシリーズ」

■ファイルベースシステム：「iSTEP+」ファイルベースソリューション/Ikegami OTCシステム/Avidファイルベースソリューション

■その他：画像鮮明化装置「FV-3000HS」

コンパクトスイッチャ「CSS-400」は、3G-SDI 18入力/9出力を装備。1Uの本体に2M/Eスイッチャ機能に加えてフレームシンクロナイザ、マルチビューを搭載しているコンパクトスイッチャ。小規模スタジオや小型制作中継車などの制作用途、あるいは、小型報道中継車や出先中継などの報道用途に最適な運用性。1Uコンパクトサイズに2M/Eスイッチャ+周辺機器（FS、カラーコレクタ、マルチビュー）を搭載小型中継車、可搬型システムなどのニーズに最適。小規模映像制作を強力にサポート・スイッチャは、2M/Eに4キーヤと6チャンネルのリサイズを搭載。操作卓は、スイッチャ本体と



カメラステージには新製品「UHK-430」を出品。2/3型4K CMOS 3板式カメラシステム「UHK-430」は、HDカメラと同様の運用性で、4K映像制作を実現しており、新開発2/3型4K CMOSセンサー3板式の光学系を搭載。現行HDカメラと同じB4レンズマウントを採用することで、これまでと変わらない操作感での4K映像制作が可能。新開発の次世代高速ビデオプロセッサ「AXII」を搭載。High Dynamic Rangeに対応したカスタムガンマ機能搭載。センサユニット部が分離可能な構造により、フレキシブルな運用を実現。カメラ/CCU間の伝送路は40Gbpsの超広帯域を確保し、RGB 4:4:4の4K非圧縮信号伝送を実現している。

分離しており、制作用途とシンプル操作用途の2タイプを用意。4Kフォーマットに対応。フレームメモリは、4系統の出力を装備など数々の特長をもつ。

スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト

オーディオ・コンソールではSTUDER製の放送用コンパクト音声卓「OnAir 1500」。映像制作システム機器では、GlassValley ライブイベント中継システム「K2 Dyno S」、メディアクライアント「K2 Summit 3G」、VSM スタジオ統合コントロールシステムなどを紹介したのをはじめ、IP リモートプロダクション LAWO「V_remote 4」、NTT エレクトロニクスリアルタイム H.265/HEVC エンコーダ/デコーダ「HC10000」などの各社製品を紹介した。

■ **STUDER「OnAir 1500」** : 12チャンネル、6フェーダーのコンソール（12フェーダーまで拡張可能）である OnAir 1500 は、ラジオ放送やプロダクション用の柔軟なハイブリッドソリューションとして設計されている。追加のプロフェッショナルグレードのフェーダーユニットと追加の I/O、またはプロダクションルームやスタジオ用のコンパクトで費用効果の高いミキシングコンソールを必要とするスタジオに最適。統合された USB の再生と録音機能により、OnAir 1500 は非常にコンパクトで完璧なミキサーになる。



STUDER「OnAir 1500」製品の特徴

- ・ Studer NANO SCORE DSP および I/O Engine、100 mm フェーダーを備えた12チャンネル、6フェーダーコンソール
- ・ 6フェーダーアドオン拡張モジュール、100mm フェーダー
- ・ 人間工学に基づいたテーブルトップインストール用の超スリムなデザイン
- ・ フラッシュマウントと19インチのラックマウントオプションが利用可能
- ・ 4バンドEQ、コンプレッサー、リミッター、エキスパンダー、ゲート、ディエッサーなどのフル・チャンネル処理
- ・ ユニークなヘッドフォンスプリットモードと内蔵スピーカーによる包括的なモニタリングとトークバック
- ・ フェーダーストリップと中央モジュールのOLED（有機LED）は、最も明瞭なディスプレイを提供
- ・ 人間工学的で使いやすいTouch 'n' Action™ ユーザーインターフェース
- ・ USB ジングル再生とバス録音機能
- ・ スタンダードStuder D21m カードスロットによる I/O 拡張
- ・ Studer のコール管理システムであるRadio Automation Systems との完全な統合、I/O 共有テクノロジーのリリンク
- ・ 高度なタイマー機能
- ・ 簡単なユーザー権利の割り当てのための USB ユーザーID

■ **GlassValley「K2 Dyno S」** リブレーションシステムは、ファイルベースのライブプロダクションにおける統合的なリブレイコントロール。優れた操作性とIT 親和性により、ライブプロダクションの可能性を大きく広げる。K2 Summit 3G、K2 Solo 3G との組合せで、ワールドワイドで数百システムにのぼる実績があり、スポーツをはじめ、様々なライブ環境のソリューションとして広く受け入れられている。

■ **GlassValley「K2 Summit 3G」** プロダクションクライアントは、放送局はもちろんプロダクションやライブイベントのワークフローでも最大限に活用できるメディアクライアント。リブレイコントローラー K2 Dyno やメディアワークフローアプリケーションフレームワーク STRATUS と組み合わせることで、ライブイベント、ニュース、スタジオなどの現場に理想的なソリューションを提供する。また、2RU のコンパクトな筐体である K2 Summit 3G プロダクションクライアントは、スタンドアロンおよびSAN ソリューションでの冗長性を備え、組み込みの OS は mSATA インターフェースを搭載した SSD を採用し高速かつ高い信頼性を実現している。各チャンネルはRISC プロセッサで構築され、映像の現場では必要不可欠な安定したリアルタイムオペレーティングシステムを構築している。また、全てのチャンネルは収録/送出の双方向対応で、素早い切り替えが可能で、低解像度ストリームやプロキシの生成はもちろん、個々のチャンネルへ機能を追加することもできる。



GlassValley「K2 Dyno S」(上)と「K2 Summit 3G」(下)



高画質リアルタイム H.265/HEVC エンコーダ/デコーダ NTT エレクトロニクス「HC10000」

■ **NTT エレクトロニクスの高画質リアルタイム H.265/HEVC エンコーダ/デコーダ「HC10000 シリーズ」**は、世界のメージャースポーツイベントにて多数使用されている H.264/AVC エンコーダ/デコーダ「HV9100 シリーズ」の高画質・高機能・低遅延・高安定性を受け継ぎつつ、自社開発 ASIC によりクロマ4:2:2、H.265/HEVC に対応するリアルタイムエンコーダ/デコーダである。ASIC を使用することで小型・低電力化、高安定性、低遅延を実現。H.265/HEVC により高画質を保ちつつ低ビットレート化が可能で、使用帯域を低減し伝送コストを抑えられる。DVB-ASI 伝送だけでなく IP 伝送に対応。安定した映像伝送を実現するため冗長が可能なシームレスプロテクション機能等に対応し、IP ネットワークにてパケット・ロスや極端なジッタがあっても、コンテンツの質を損なうことなく高品質な伝送が可能である。

■ **LAWO「V_remote 4」** : WAN ベースのリモートプロダクションで、ビデオ及びオーディオ信号の処理と転送などすべての要件に対応するオールインワンソリューションを提供できるように設計されており、Video-over-IP コーディングから、様々な監視及び処理ツールまでのアプリケーションが含まれている。ラックスペース、セットアップ時間、制作コストを節約しながら、ブロードキャストアプリケーションの柔軟性を向上させるツールを提供する目的で設計されている。

また、今日の IP ベースのリモートブロードキャスト制作のビジョンを達成するための理想的なツールで、2 系統の双方向 4 チャンネル Video-over-IP インターフェイス、4 系統のローカル SDI 入出力、および WAN または LAN 経由でビデオおよびオーディオを放送制作に提供する際に通常必要とされるすべての処理ツールを組み合わせている。(写真下)



グラスバレー

開期中に「Video over IP と最新技術動向について」と題してセミナーを開き、2014年から進めている「Glass-to-Glass」IPソリューションについて、背景から市場の動向、要素技術などの最新情報を紹介。扱うデータ(信号フォーマット)に依存しない広帯域でスケラブルなあらたな放送インフラシステム概念、ブロードキャストデータセンターや、メーカー間の相互交換性を促進するための業界団体 AIMS のロードマップなども併せて紹介した。

展示製品は以下のとおりの内容である。

■ビデオファイルトランスコーダー「XRE Transcoder」《新製品》:ワークフローで必要となるファイル変換を、直感的な操作と高速処理で実現。指定したフォルダを常時監視し、フォルダにファイルがコピーされると自動的に変換作業が始まる「ウォッチフォルダ機能」や変換作業の優先順位を管理する「ジョブ機能」など、マルチフォーマット対応ビデオファイルトランスコーダーならではの機能で生産性を大きく向上させる。



■Quad Link 4K 対応双方向光伝送システム「T-POV-3244」《新製品》:双方向光ファイバー伝送テクノロジーにより、放送用HD・4Kカメラ等の可用性を大幅に向上させる。Quad Link 4K、HD、VBS、オーディオ、イーサネット、シリアルデータ、GPI/ タリー等のデータ転送が可能で、パワーモデルでは、光カメラケーブル(SMPTE ハイ



ブリッドケーブル)を介して、カメラユニットへ電源供給する事も可能な製品。

■ノンリニア編集システム(EDIUS Workgroup 8.5)「HDWS-4K2 Elite/REXCEED X2000 G2」:EDIUS Workgroup の最新バージョンを展示。好評の「モーショントラッキング」機能は、トラッキングを実行すると、自動的に追従して位置・大きさ・回転のデータを高速に解析。また、Log フォーマットで撮影された素材を自由に操る、プライマリーカラーコレクションも搭載。各カメラメーカーの Log フォーマットが混在した場合でも、1つの Log フォーマットに揃える機能も搭載している。



■共有ストレージ「K2 Central TX」:K2 ファミリーの技術を継承した新しいストレージソリューションで、費用対効果に優れた比類なきパフォーマンスと既設システムからの容易なマイグレーションといった特長を持ち、K2 Summit 3G との組合せだけでなく、NLE クライアント向け共有ストレージシステムとしても利用可能。



■HD6 倍速 /4K 対応リプレイシステム「K2 Dyno Universe」:6 倍速、4K に最適化された K2 Dyno Universe リプレイシステムは、ハイフレームレート映像におけるライブプロ



T2 Elite 2 (左) と K2 Central TX (右)

ダクションにおいても K2 Dyno と同様のオペレーションで、様々なカメラポジションのリプレイを可能にする。

■ルーティングプラットフォーム《新製品》「GV Node」:リアルタイムの IP プロセッシングとルーティングが可能な SDI と IP SMPTE2022-6 双方のプランキングスイッチに対応した次世代ルーティングプラットフォーム。1 ノードあたり 144×144 ビデオと 4608×4608 オーディオをサポートし、ノード増設によるスケラブルな拡張という特徴を持ち、TICO コーデックの採用により 4K 1 ワイヤー伝送にも対応。モジュール構成により IP I/O、SDI I/O、マルチビューワーモジュールを実装可能で、Densit. シリーズの各種プロセッシングモジュールもサポートする。

■ルーターコントロールシステム《新製品》「GV Convergent」:COTS(汎用) IP スイッチと SDN 技術を採用した新世代のルーターコントロールシステムで、SDI ルーティングスイッチャーのコントロールパネルを使用して IP と SDI 双方のルーティングを可能にする。GV Node と共にグラスバレー「Glass-to-Glass」IP ソリューションのコアとなる製品で、SDN 対応 COTS(汎用) IP スイッチ、SDI ルーティングスイッチャーや IPG-3901 IP/SDI ゲートウェイを包括制御し、SMPTE 2022-6 HD や TICO コーデックを使用した 4K 1 ワイヤーによる運用を可能にする。

neviON Media Gateway to IP

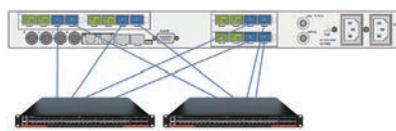
ビデオプロダクション、ビデオ長距離中継伝送、放送スタジオの IP 化ゲートウェイ各種インターフェースを取り揃えております。



Virtuoso シリーズ

3GHD-SDI 非圧縮、JPEG2000、TICO、ASI、H.264/AVC
Media Gateway, IP Aggregation, Monitor...

製造元:
Nevion AS



非圧縮 16 HD-SDI I/O、SMPTE2022-6 IP コーデック
+ eMerge 10GBE スイッチ・40 GBE データ・アグリゲーション、SMPTE2022-7 SIPS リダンダントバス構成

Flashlink IP シリーズ

非圧縮マルチプレックス SDI
AES 67 IP オーディオ



輸入販売元:
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●http://www.network-electronics.co.jp

エーティコミュニケーションズ

SWEDISHの小型軽量衛星アンテナ「CCT-120 ドライブアウェイ」を搭載した日産エルグランドの衛星通信車の実車を展示したのをはじめ、本展ではABC 朝日放送に納入した「SWE-DISH DA-120」衛星アンテナを搭載したトヨタハイエースロング・ワイド・ミドルルーフ車と、中京テレビに納入した「CCT120」搭載のSR4 ランクル SNG 車の紹介などを行った。

展示した日産エルグランドのSNG 中継車は、5名定員で、ドライバーと衛星通信オペレーターがワンマンで行えるスマート・サテライト・ニュース・ギャザリング車の後方ラックにiDirect 社エボリューション中継システムの子機となる端末も装備された仕様となっている。搭載している「CCT120 ドライブアウェイ」は、搭載車両には特別なルーフ構造を必要とせずに車種を問わず設置できる。特徴は、堅

固な構造であるにもかかわらず軽量コンパクトで、全ての主要な機能はカウル内に装備されているので、車内への配線が容易。簡単に、優雅に、かつ敏速に、遠隔地からの伝送が可能となる。

そのほか、製品の単体展示では、超小型可搬衛星通信装置「ManPack」、ポータブルアンテナ「QCT90」、小型可搬衛星通信装置「CCT120」などを出品。

超小型可搬衛星通信装置「ManPack」は、直径わずか60cmの折りたたみ式フリップ型アンテナ、GPS、磁気センサー、ビーコン受信機、電子傾斜計、モデムなどで構成されているが、総重量は12kg と超軽量なため、搬入設置等が一人で容易に行える製品である。

また、「QCT-90」は、製品重量は20kg、アンテナサイズは90cm×59cmで、コンパクトな可搬トランクに収納出来る製品である。



日産エルグランドのSNG 中継車
手前左は超小型可搬衛星通信装置「ManPack」



QCT90携帯用衛星通信装置 CCT120 小型可搬衛星通信装置

ATV

同社定番製品のチャンネル・ライブAV ミキサー「A-PRO-4」、8チャンネル・マルチフォーマット・スイッチャー「MS-8」、高機能ビデオコンバーター「AV-5S/AV-3 SERIES」などを紹介したほか、エレクトリックドラム「aDrums」とエレクトロオーガニック・パーカッション「aFrame (エーフレーム)」が登場し、演奏が行われた。

・4CH HD LIVE AV MIXER「A-PRO-4」各ボタンやTバー、スライダー等、感触の良い直観的操作で最大級の結果を提供するプロクオリティのAV ミキサー。2K/60Pまでを10Bit/4:4:4 処理、マルチフォーマット対応、外部同期対応、WEB 中継にそのまま使えるストリームをUSB 出力。

・8CH MULTI-FORMAT VIDEO SWITCHER「MS-8」

テレビ会議やプレゼンテーションに最適。

フォーマットがバラバラの映像ソースであっても、内蔵スケーラーによりすべてのビジュアルをスマートにコントロールしつつ、WEB 中継にそのまま使えるストリームをUSB 出力。

・VIDEO CONVERTER「AV-5S/AV-3 SERIES」

フレームシンクロナイザー、フレームレートコンバーターにもなる高性能コンバーター。SDI ⇄ HDMI の単純変換では済まない一歩進めた用途に最適。

・エレクトリックドラム「aDrums」

アコースティックの打感や楽器としての存在感そのものが凝縮したエレクトリックドラム aDrums が登場！

音源にはプレイヤーのスキルまでもが表現されてしまうリアリティを持つaD5を採用。これまでaD5のためのパッドは他社製



「aDrums」と「aFrame」をブースで実演

品を流用するしかなかったが、aDrumsの登場で、音と体の親和性が高まり、アコースティックドラムとしての演奏感が楽しめるようになってきている。

・エレクトロオーガニック・パーカッション「aFrame」
aFrame はプレイヤー本来のフィーリングを損なうことなく、アコースティック楽器の感覚で演奏できる今までにない全く新しい電子楽器。独自に開発された「Adaptive Timbre Technology」(アダプティブ・ティンバー・テクノロジー)により、従来のPCM 音源方式のデジタルパーカッションでは不可能だった、パーカッション本来の奏法である「叩く」「押す」「擦る」ことで発音、音色変化、エフェクトコントロールなどを表現することができる。

演奏の基本になる打面には、皮の反発力や摩擦力を思わせる、しなやかな感触の素材を採用し、自然な演奏感を実現している。なお、本機の木製のような外周フレームには「竹」を使用。収縮が少なく、音量的なバランスが良いなどの利点がある上、プレイヤーの手に優しい手触り感が、製品のコンセプトでもある『オーガニック』を象徴する仕上がりになっている。



4チャンネル・ライブAVミキサー A-PRO-4
8チャンネル・マルチフォーマット・スイッチャー MS-8
高機能ビデオコンバーター AV-5S/AV-3 Series

ATV 株式会社 [営業部] 〒111-0053 東京都台東区浅草橋 2-29-11 マルケービル 9F
<http://www.atvcorporation.com/> TEL:03-5829-4919

オタリテック

RIEDELの最新ワイヤレス・インカム・ソリューション「Bolero」をはじめ、LAWO「mc²36」、OTARI「LWB」、GENELEC「SAMシステム」などを展示紹介。

■最新ワイヤレス・インカム・ソリューション RIEDEL「Bolero」：ライセンスフリーの1.9 GHz帯を利用する拡張可能な DECT ベースのフルローミング・インカム・システム。RIEDEL「Artist」デジタル・マトリクス・インカム・プラットフォームと完全に一体化される「Bolero」は、優れたワイヤレス・ベルトパックとしてまたワイヤレス・キーパネルとして、そして業界初でウォークトーカー無線機としての3通りの使い方を実現できる豊富な機能と接続能力を備えている。

AES67規格準拠のIPネットワーク上で動作し、分散型アンテナがAES67スイッチに次いでAES67クライアント・カード搭載の「Artist」フレームにつながって、シームレスなローミング能力を持つ一体型の1対1インカム・システムとなる。

システムにとってベルトパックはRIEDEL製のパネルのように見えるがそれはワイヤレスであり、柔軟にシステムを構築することが可能になっている。明瞭度の高い「Bolero」のボイス・コーデックは優れた了解度を実現し、RFスペクトルをさらに有効利用できるようにして、他のDECTベースのシステムと同じ音声

帯幅でアンテナが2倍のベルトパックを扱えるようにした。このコーデックは優れた遅延特性を持つと同時に処理パワーを極めて効率的に利用し、ベルトパック・バッテリーの持ち長くし、DSPの処理パワーを他の機能用にセーブすることができる。

■LAWO mc²36：DSPとI/Oを内蔵したLAWO初のオールインワン・コンソール。コンパクトなサイズは限られた空間内での常設と輸送の多い現場に最適なソリューションで、他のLAWOコンソールと同様に妥協のない音質と最大限の信頼性を届けるべく設計され、フル装備のオーディオ・コンソールの機能セット以外に放送、劇場制作やライブ・パフォーマンスのワークフローとクオリティを改善するLAWO独自機能をも備えている。同製品は通常はスタンドアロン運用に即応できる状態にて納品されるが、拡張や他の「mc²36/56/66」コンソールやLAWO「Nova」オーディオ・ルーターとのネットワークへの備えも万全で、MADIタイライン・ポート1個とRAVENNA/AES67 Audio-over-IPポート3個によって、将来、入出力デバイスやネットワークを追加する際も確実に接続が可能である。

また、コンソールのあらゆる面をユーザー独自のニーズに合わせることができる。プロダクション・データはすべてUSBメモリー上

に簡単に保存でき、他のコンソールに移動できる。

■OTARI LWB：LWB (Lightwinder Broadcasting) は中継放送現場で扱われる様々な信号をデジタル変換して光ファイバーで伝送する装置。マイク信号やMADI (AES10) 信号やその他の音声信号 (デジタル&アナログ)、インターカム信号、SDI & HD-SDI ビデオ信号、制御信号を1本の光ファイバー・ケーブル (光カメラ・ケーブル) で伝送する。

LWBシリーズには出先用の可搬型ユニットの「LWB-16M」と中継車用のラックマウント型の「LWB-64」という2種類のベース・ユニットを用意。どちらのユニットもモジュラー形式になっており、挿入するモジュールを選択することによって信号の入出力などの構成を柔軟に行える。また専用のモジュールを装着し、コメンタリー・ボックスを接続することで、デジタル・コメンタリー・システム (Digital Commentary System) としても使用することができる。

LWBシリーズはPCを使わずに運用できるという利便性を特徴としているが、GUIリモート・コントロール/モニター・ソフトウェア「Lightwinder Commander V2 (Lwc V2)」を追加することによって、さらに強力で使いやすいシステムになる。



RIEDEL「Bolero」

LAWO mc²36

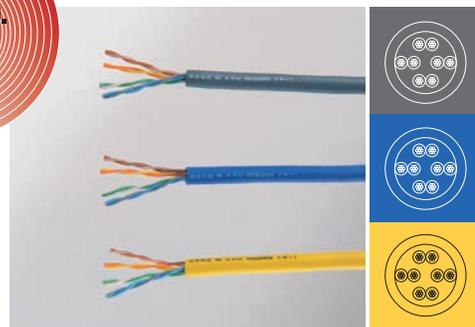
オタリ Lightwinder LWB シリーズ

MOGAMI LAN CABLE

モガミ イーサネット ケーブル 施工工専用 LANケーブル

Part No.
3367

施工工事時に有刺鉄線のようにならず楽に配線出来るよう、平らにまっすぐ収まるように設計されたLAN CABLEです。ULVW-1難燃規格にも適合しており、標準で3色(青・灰・黄)用意しました。また、平均的な減衰測定値から90m前後まではTIA/EIA-568B Cat-5e規格値を満たしますので、両端に接続される機器の電気的性能によりそれ以上の長さで使用出来る場合や、逆にそれ以下の利用長に制限される場合がありますので、際どい場合には利用前に実地確認する必要があります。



お問い合わせ エムアイティー株式会社

PHONE: (03)3439-3755

E-MAIL: mit@mogami.com

URL: http://www.mogami.com

*この章の続きは23ページ